

住職の写真日記より【令和2年3月】

新型コロナウイルスの影響で、3月の行事はすべて中止。近郊のほとんどのお寺がそうしたようです。どのお店も閑散としていて、東京の娘が勤めているお店も、土日が臨時休業になるなど影響が出ているようです。ホントに大変な状況で、一刻も早い終息願います。



3日 明善寺のひなまつり

ひな飾りは、坊守が産まれた昭和44年のもの。現在は、姪っこに引き継がれています。



7日 坊守51歳誕生日に

道新「いずみ欄」で見て、自分の誕生日に両親にはがきを出すのを真似たとか。



7日 コロッケ作り

前坊守に、数年ぶりに得意料理のコロッケを作るとお願いしました。美味でした。



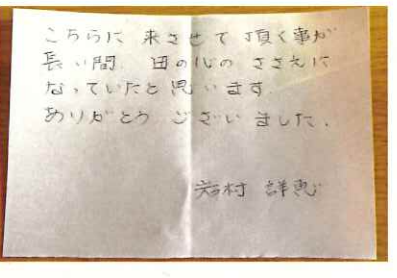
9日 無観客相撲

最初は、違和感を感じましたが、すぐに慣れました。普段は聞けない細部の音が聞こえて新鮮な感じも。



11日 9年前の3.11

地震発生した日の夜、当時10歳だった純正は、ヘルメットをかぶっていました。坊守が撮影した秘蔵写真。



16日 娘さんからの一筆

病気を機に本州の娘さんの所へ引越していった檀家さん、一人でよくお寺の清掃をして下さいました。



22日 九州のさつまいも

2年前、報恩講にご出講下さった大松先生から。コロナの事を心配されての温かいお手紙も添えられてました。感謝!



24日 納骨堂後片付け

コロナのため、檀家さんによる清掃奉仕は中止にしました。彼岸納骨堂参りは参詣者も少なめ、なので供物も少なめ。



27日 永岡裕さんご逝去

千正寺に本部を置くBS千歳1団の団委員長を長年にわたり務めて下さいました。お疲れ様でした。

坊守の独り言

2月下旬、前坊守のお兄さん京極町光寿寺住職がご往生されました。最後まで現役住職として生きてこられた92年のご生涯。不謹慎ですが、毎年「今年が最後かも知れないな」と思いながら光寿寺の報恩講に出勤していました。

40キロを切った細い体で法務をこなすことは大変だったことでしょう。現在、会社員としてお勤めしている息子さんには「お寺を継がないということは「ふるさと」が無くなることだからな」と伝えていたそうです。深い言葉ですよ。今は85歳になる坊守さんが光寿寺の法務をしています。光寿寺が子供たちの「ふるさと」ご門徒「ふるさと」としてこれからもあり続けて欲しいと願うばかりです。

そして3月下旬、千正寺に本部を置くボーイスカウト千歳1団の団委員長を長年務めて下さった永岡裕様(92歳)がご往生されました。子供たちに温かなまなざしで接していた姿を思い出します。謹んでお悔やみ申し上げます。